

地域安全学会ニューズレター No. 41
- 目次 -

1. 第12回研究発表会のご案内と一般論文募集	1
(1) 一般論文募集のご案内	
(2) 一般論文投稿規定	
(3) 一般論文投稿形式	
2. 地域安全学会総会報告	6
(1) 2001年度事業報告	
(2) 2002年度事業計画	
(3) 2002年度役員	
(4) 2002年度の組織・役員・業務分担	
(5) 2001年度決算報告	
(6) 2002年度予算	
(7) 論文奨励賞の授与式	
(8) 前FEMA長官 James L. Witt氏の講演報告	
3. 査読論文の審査状況報告	18
4. 次回日米都市防災会議について	18
5. INFORMATION	19



地域安全学会ニューズレター
ISSS News Letter

No. 41
2002. 8

1. 第12回(2002年度)研究発表会のご案内と一般論文募集

第12回地域安全学会研究発表会を「静岡県地震防災センター」において下記のとおり開催いたします。

1999年度から、学会活動のさらなる活性化を図るべく、従来の査読を要しない論文(以下、一般論文)に加えて、投稿論文の査読審査システムを導入(以下、査読論文)し、これらの論文についてあわせて発表会を行っています。また、一般論文の発表方法として、口頭発表、およびポスター発表が設けられています。

今回のニュースレターでは、一般論文(口頭発表およびポスター発表)の募集をご案内いたします。なお、今年度の査読論文の応募は締め切られておりますので、念のため申し添えます。

また、一般論文の執筆要領については、ページ数の上限が4ページとなっておりますので、投稿にあたってはご注意ください。

地域の安全、安心、防災に関心のある多くの方々の参加により、活発な発表、討議、意見の交流が行われることを期待いたします。

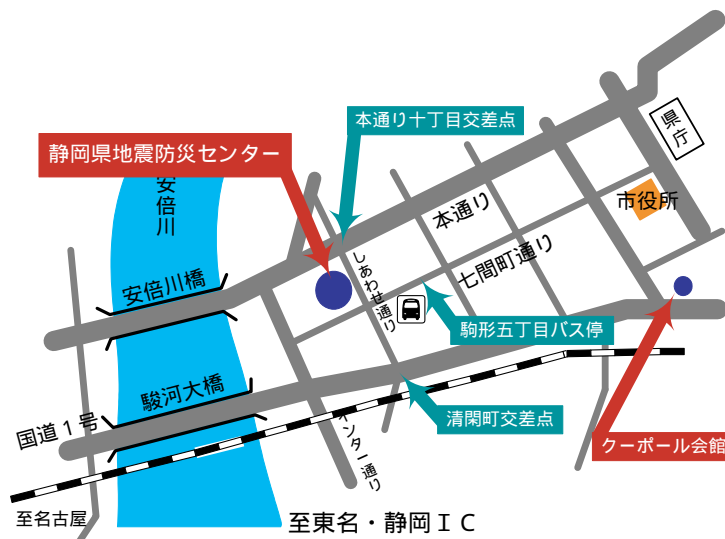
日時：平成14年11月8日(金)～11月10日(日)

- ・ 8～9日午前中までは査読論文の発表日、9日午後および10日は一般論文の発表日を予定していますが、投稿論文数によって変更の可能性があります。
- ・ 9日(土)の夜に例年と同様、懇親会を開催します。

場所：静岡県地震防災センター

〒420-0042 静岡市駒形通り5-9-1 (JR静岡駅から徒歩約25分)

TEL：054-251-7100



参加費：

	参加費	梗概集 Proceedings	論文集 Journal
会員	3,000 円 (講演梗概集 1 冊を含む)	参加者は 1 冊進呈 (追加購入の場合、 3,000 円 / 冊)	3,000 円 / 冊
査読論文発表者 (筆頭著者のみ)	無料	3,000 円 / 冊	1 冊進呈 (追加購入の場合、 3,000 円 / 冊)
一般論文発表者 (筆頭著者のみ)	無料	1 冊進呈 (追加購入の場合、 3,000 円 / 冊)	3,000 円 / 冊
会員外	5,000 円 (講演梗概集 1 冊を含む)	参加者は 1 冊進呈 追加購入の場合、 3,000 円 / 冊	3,000 円 / 冊
静岡県民の方	無料 (右の 2 種類の資料は別 途購入する必要があります)	3,000 円 / 冊	3,000 円 / 冊

懇親会参加費：一般 5,000 円、学生 2,000 円

一般論文募集のご案内

地域安全学会 研究発表会実行委員会

会員各位におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、第12回地域安全学会研究発表会を下記の通り開催いたします。今年度は、昨年度に引き続き、一般論文にポスター発表を設けます。ふるってご応募くださいますようご案内申し上げます。

なお、今回から、諸業務の増大により、事前登録および発表不可日時の登録が廃止となりましたので、ご了承ください(同日期限でEメールによる登録が必要です)。また、諸経費増加の折り、昨年度より投稿料をいただくことになりました。重ねてご了承をお願いいたします。

開催要領

- (1) 日時：平成14年11月8日(金)～10日(日)
一般論文の発表は11月9日(土)午後、10日(日)となる予定です(投稿論文数によって変更の可能性があります)。

- (2) 場所：静岡県地震防災センター
静岡市駒形通5-9-1(JR静岡駅より徒歩25分)

投稿方法

論文を投稿するには、郵送・宅配による本文の送付に加えて、Eメールによる登録を行っていただく必要があります。発表形式には「口頭発表」と「ポスター発表」がありますが、どちらを希望するかを明記してください。会場の都合でご希望に添えない場合もありますが、ご了承ください。なお、どちらの発表についても本文の送付が必要です。

- 1. 本文の送付

- (1) 送付期限：平成14年9月27日(金)(消印有効)
- (2) 論文形式：
 - (a) 本ニュースレターの4ページに掲載してある投稿形式参照。なお、当学会のホームページ(<http://www.kt.rim.or.jp/~iss>)に掲載のMS-Wordテンプレートをダウンロードの上、利用可能。
 - (b) A4版偶数ページ(4ページ以内)。そのまま白黒(カラー原稿含)オフセット印刷するため、鮮明な原稿のこと
- (3) 送付先
 - (a) すべて郵送もしくは宅配のみ
(FAXおよびE-mailでの投稿は不可)
 - (b) 宛先:〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-7
横浜国立大学大学院環境情報研究院
研究発表会実行委員会 佐土原 聡 宛て

- 2. Eメールによる登録

- (1) 登録期限：平成13年9月27日(金)
- (2) 宛先：anzen1@ynu.ac.jp(佐土原聡宛)
- (3) 登録内容、書式：
 - 1行目 「地域安全学会一般論文登録」と入力してください。
 - 2行目 論文題目
 - 3行目 筆頭著者氏名
 - 4行目 筆頭著者所属
 - 5行目 筆頭著者連絡先住所(郵便番号も)
 - 6行目 筆頭著者Eメールアドレス
 - 7行目 筆頭著者電話番号
 - 8行目 筆頭著者ファックス番号

- 9行目 発表形式：イ.口頭発表 ロ.ポスター発表の別

- 10行目 発表分野：A～Fのうち一つを選んで記入
A.被害予測と緊急対応 / B.被災者の自立と社会的支援 / C.防災計画と対策 / D.都市施設の防災性向上と許容リスク / E.突発災害・事故 / F.一般セッション

- 11行目以降 連名著者がいない場合は論文概要(250字以内)いる場合はその氏名、所属を1行に1名ずつ記入、改行後、論文概要(250字以内)

注)発表者がわかるように氏名に をつけてください。

- (4) その他：
 - (a) 登録時の論文概要を発表会プログラムと共に、次号の「ニュースレターNo.42」に掲載する。
 - (b) 発表は一人一論文のみ

投稿料の納入

- (1) 投稿料：5000円/編(筆頭者のみ参加費免除)
- (2) 投稿料の納入方法
期限：平成13年9月27日(金)までに宛てに振り込んでください。
振込先：
銀行：みずほ銀行 蔵前支店
口座名：地域安全学会 論文口座
口座種別・番号：普通預金 1540736
振込者名：筆頭著者氏名
その他：振り込み通知書のコピーを送付する本文に同封してください。

ポスター発表の設営等

- (1) ポスターの内容：
著者の所属・氏名、発表の目的、内容、結論をコンパクトに記述のこと。与えられた大きさの中で、視覚に訴えるよう多色使いとし、図表、写真等を自由にしてください。
- (2) パネルの大きさ等：
1論文に対し、パネル1枚(横90cm×縦180cmのベニヤ板)を提供。掲示のための画鋸やセロテープは、各自持参のこと(取り外しを考慮すると画鋸が最適)。
- (3) 部屋およびポスターの設営期間、発表、撤去
部屋、設営期間、発表スケジュール、撤去については後日ニュースレターまたはEメールにて連絡します。
なお、ポスター発表会場ではパソコンによるプレゼンテーションのための机を用意することは可能ですが、電源の制約があります。

一般論文投稿規定

平成13年3月

地域安全学会 研究発表会実行委員会

1. 一般論文投稿分野

地域社会の安全問題、解決策についての横断的な幅広い分野の研究・技術・実務などを論ずるもの、あるいは具体的な提言に関するもの。

2. 投稿者

論文の筆頭著者は、地域安全学会会員に限り、研究発表会において発表し、かつ討議に参加しなければならない。

3. 投稿先

地域安全学会研究発表会実行委員会の宛先とする。

4. 発表方法

一般論文の発表方法は、「口頭発表」と「ポスター発表」のいずれかによる。筆頭著者(発表者)1人につき、いずれかの発表方法の1演題に限るものとする。

5. 投稿手続き

- 5-1 投稿期限：投稿期限は、年1回開催する地域安全学会研究発表会に先だって会告する。
- 5-2 投稿原稿の内容：投稿原稿は、同一会期内で開催される研究発表会で発表する査読論文とは異なるものとし、同一テーマのものとシリーズ発表は受け付けない。
- 5-3 使用言語：投稿論文に使用可能な言語は、和文または英文でなければならない。
- 5-4 提出原稿の様式：投稿者は、期日までに「地域安全学会梗概集」に登載するための「印刷用オリジナル原稿」を地域安全学会研究発表会実行委員会事務局まで提出しなければならない。提出原稿は、「一般論文投稿形式」によるものとし、図・表・写真を含め、オフセット印刷用の版下原稿とするため、本文・図・表・写真は鮮明なものとし、カラーは使用しない。

6. 著作権

「地域安全学会梗概集」に登載された論文の著作権は著者に属し、地域安全学会は、編集著作権を持つものとする。

地域安全学会 研究発表会
投稿論文形式

(A4版の白紙に、下記の形式を厳守して、投稿論文を作成して下さい)



上記レイアウトは、70%縮小のものです。

2. 地域安全学会総会報告

去る5月26日に2001年度地域安全学会総会が開催されました。総会出席者は38名、委任状提出者は119名で総会は成立し、2000年度事業報告及び決算報告、2001年度事業計画及び予算、役員の変更等が報告・審議され、了承されました。あわせて昨年度の論文奨励賞の授与式が行われました。その内容について、以下に掲載します。

(1) 2001年度事業報告

地域安全学会が2001年度に実施した事業は下記の通りである。

1. 講演会の開催（担当：調査企画委員会）

講演会を下記の通り開催した。

日 時：2001年5月26日（土）

場 所：早稲田大学理工学部

講 師：村上 處直氏（㈱防災都市計画研究所）

2. ミニシンポジウムの開催（担当：調査企画委員会）

ミニシンポジウムを下記の通り開催した。

主 催：調査・企画委員会

日 時：2001年5月26日（土）

場 所：早稲田大学理工学部

3. 理事会の開催

2001年度は理事会を下記の通り開催した。

	開催年月日	出席者数	委任状数
第1回	2001年5月26日	14	7
第2回	2001年7月28日	18	4
第3回	2001年9月29日	15	3
第4回	2001年11月9日	21	6
第5回	2002年1月26日	11	10
第6回	2002年3月23日	14	7

（定足数：16名）

4. 第11回研究発表会の開催

第11回研究発表会を下記の通り開催した。

日 時：2001年11月19日（金）～11月11日（日）

場 所：静岡県地震防災センター

発表論文数：論文集 32編、梗概集 42編（ポスター発表 13編、口頭発表 29編）（特別報告含む）

出席者数：173名

5. 地域安全学会梗概集の刊行（担当：研究発表会実行委員会）

第11回研究発表会の「地域安全学会梗概集 No.11」を刊行した。

6. 学術委員会（担当：学術委員会）

「地域安全学会論文集 No.3」を刊行し、その論文発表を第11回研究発表会の中で行った。

論文賞（1編2名）と論文奨励賞（2名）の選出を行った。

7. 調査・企画委員会の活動

ミニシンポジウムを下記のとおり開催した。

日 時:2001年5月26日(土)

場所:早稲田大学理工学部

下記の小委員会を構成して討議を進めてきた。

A:人と地域の防災戦略研究小委員会

B:防災体系国際比較研究小委員会

昨年に報告した「中国地震防災法の研究」の刊行準備

8. 会員名簿の改訂発行(担当:事務局)

会員の入退会に伴い、2001年度会員名簿を発行した。

9. 広報委員会の活動

ニュースレターを下記の通り発行した。

No.38:2001年8月

No.39:2001年10月

No.40:2002年3月

ホームページを通じて、ニュースレター等を周知すると共に、関連機関と連携してトピック情報の広報を行った。

10. 会員数及び年会費納入

2001年度末(2002年3月31日)現在の会員数及び会費納入状況は下記の通りである。

	会 員 数	会費納入状況		
		過年度分	本年度分	次年度分
賛助会員	4社	- - -	4社	- - -
正 会 員	412名	31名	339名	- - -
学生会員	65名	3名	49名	- - -

(2) 2002年度事業計画

地域安全学会が2002年度に計画している事業は下記の通りである。

1. 講演会の開催(担当:調査企画委員会)

講演会を下記の通り開催する。

日 時:2002年6月1日(土)

場 所:独立行政法人消防研究所 本館 3階大会議室

講 師:James L. Witt氏(米国連邦緊急事態管理庁前長官)

2. 理事会の開催

2002年度は理事会を下記の通り開催する。

第1回:2002年6月1日

第2回:2002年7月27日

第3回:2002年9月21日

第4回：2002年11月8日
第5回：2003年1月25日
第6回：2003年3月15日

3. 第12回研究発表会の開催（担当 研究発表会実行委員会）

第12回研究発表会を下記の通り開催する。

日 時：2002年11月8日(金)～11月10日(日)

場 所：静岡県地震防災センター

4. 地域安全学会梗概集の刊行（担当 研究発表会実行委員会）

第12回研究発表会において発表される論文の梗概集「地域安全学会梗概集 No.12」を刊行する。

5. 学術委員会活動（担当 学術委員会）

「地域安全学会論文集 No.4」を刊行し、その論文発表を第12回研究発表会の中で行う。

第12回研究発表会の論文賞と論文奨励賞の選出を行なう。

6. 調査企画委員会活動（担当 調査企画委員会）

下記の小委員会による研究討議を進める。

A:人と地域の防災戦略研究小委員会

B:防災体系国際比較研究小委員会

研究発表会等での研究成果報告、公開研究の開催等を通じて研究の推進、交流を図る。

7. 会員名簿の改訂と発行（担当 事務局）

2001年度中の会員の入退会に伴い、2002年度会員名簿を発行する。

8. 広報委員会の活動

ニュースレターを下記の通り計3回発行する。

No.41：2002年8月

No.42：2002年10月

No.43：2003年3月

ホームページを通じて、学会からの情報提供をおこなう。

(3) 2002年度 地域安全学会役員

会長	熊谷 良雄	筑波大学 社会工学系	
副会長	林 春男	京都大学 防災研究所附属巨大災害研究センター	総務・渉外担当副会長 日米都市防災会議委員長
副会長	翠川 三郎	東京工業大学大学院 総合理工学研究科	学術担当副会長 / 学術委員長
理事	糸井川 栄一	筑波大学 社会工学系	広報委員長
理事	岩田 孝仁	静岡県防災局	学術委員 / 研究発表会実行委員
理事	大西 一嘉	神戸大学 建設学科	調査企画委員 / 広報委員
理事	岡田 成幸	北海道大学大学院 工学研究科	学術委員
理事	清野 純史	京都大学大学院 工学研究科	学術委員
理事	佐土原 聡	横浜国立大学大学院 環境情報研究院	研究発表会実行委員長 調査企画委員
理事	塩野 計司	長岡工業高等専門学校 環境都市工学科	学術委員 / 調査企画委員
理事	重川 希志依	富士常葉大学 環境防災学部	
理事	高梨 成子	(株)防災 & 情報研究所	学術委員 / 調査企画委員
理事	塚越 功	慶応義塾大学大学院 政策メディア研究科	受託研究運営委員長
理事	中林 一樹	東京都立大学都市科学研究科	日米都市防災会議委員
理事	長能 正武	日本リスクマネジメント(株) 技術部	研究発表会実行委員 日米都市防災会議委員
理事	廣井 脩	東京大学 社会情報研究所	
理事	三船 康道	(株)エコプラン	
理事	宮野 道雄	大阪市立大学大学院 生活科学研究科	調査企画委員長
理事	村上 ひとみ	山口大学大学院 理工学研究科	調査企画委員
理事	村尾 修	筑波大学 社会工学系	広報委員
理事	室崎 益輝	神戸大学 都市安全研究センター	
理事	目黒 公郎	東京大学 生産技術研究所	学術副委員長 / 調査企画委員
理事	矢代 晴実	アジア防災センター	
理事	山崎 文雄	東京大学 生産技術研究所	
理事	吉井 博明	東京経済大学 コミュニケーション学部	
理事	鈴木 正弘	東京消防庁 防災部	所属で受け持つ理事
理事	務台 俊介	総務省消防庁 防災課	所属で受け持つ理事
理事	合田 純一	国土交通省都市・地域整備局 まちづくり推進課都市防災対策室	所属で受け持つ理事
理事	大平 一典	国土交通省河川局 防災課災害対策室	所属で受け持つ理事
理事	布村 明彦	内閣府 参事官(地震・火山対策担当)	所属で受け持つ理事
監事	井野 盛夫	富士常葉大学 環境防災学部	
監事	村上 雅也	千葉大学 工学部	
顧問	伊藤 滋	早稲田大学教授	
顧問	小川 雄二郎	富士常磐大学 環境防災学部	
顧問	梶 秀樹	慶応義塾大学 総合政策学部	
顧問	片山 恒雄	独立法人 防災科学技術研究所	
顧問	亀田 弘行	独立法人 防災科学技術研究所 地震防災フロンティア研究センター	
顧問	高野 公男	(株)マヌ都市建築研究所	
顧問	濱田 政則	早稲田大学 理工学部	
顧問	村上 處直	(株)防災都市計画研究所	

(4) 2002 年度地域安全学会の組織・役員・業務分担

1. 会長：熊谷 良雄（筑波大学 社会工学系）
理事会運営、総会運営、発表会等での挨拶、副会長担当外の学会内外の業務処理、学会の長期展望（学術団体化、法人化、税務対策等）
2. 副会長：林 春男（京都大学防災研究所 巨大災害研究センター）
総務・渉外担当 ～
：翠川 三郎（東京工業大学大学院 総合理工学研究科）
学術担当 ～
3. 監査役：井野 盛夫（富士常葉大学 環境防災学部）
：村上 雅也（千葉大学 工学部）
会計監査
4. 理事会：別紙（2002 年度地域安全学会役員名簿）
地域安全学会の運営全般、各種事項の承認
5. 顧問：別紙（2002 年度地域安全学会役員名簿）
理事会への助言
6. 委員会
学術委員会：翠川 三郎(前掲)
査読論文の投稿・査読規定、査読論文募集、同査読依頼、採否の判定、論文集刊行、発表会スケジュール編成、論文賞選定（委員長の任期は2年とする）
調査企画委員会：宮野 道雄（大阪市立大学大学院 生活科学研究科）
長期およびトピック的な課題の整理・分析とその学会員への提供、講演会・シンポジウムの開催、災害調査の企画・実施
受託研究運営委員会：塚越 功（慶應義塾大学大学院 政策メディア研究科）
受託研究の受入れ・実施
日米都市防災会議委員会：林 春男(前掲)
広報委員会：糸井川 栄一（筑波大学 社会工学系）
ニュースレター編集・刊行、学会ホームページ管理
研究発表会実行委員会：佐土原 聡（横浜国立大学大学院 環境情報研究院）
一般投稿論文の募集、梗概集編集・刊行、発表会スケジュール編成、会場設営、懇親会開催、発表会のニュースレター用原稿の編集（委員長の任期は2年とする）
7. 事務局（事務局長：宮本英治）
会員管理、会員名簿発行、会費徴収と管理、予算の策定・執行管理、理事会・総会の開催事務、発表会参加者管理、その他の事務全般

(7) 論文奨励賞の授与式

論文奨励賞の授与式は、講演会に引き続き、16時から総会会場で行われました。授与式は、翠川三郎学術委員長の進行で行われ、論文賞および論文奨励賞受賞者選出までの経緯が報告されました。つづいて受賞者に熊谷良雄会長から賞状と記念メダルが授与されました。32編の査読論文の中から、研究発表会での審査により、以下の方が論文奨励賞の受賞者として選ばれました。

2001年度地域安全学会論文賞

目黒公郎・高橋 健(東京大学)

「既存不適格建物の耐震補強推進策に関する基礎研究」

【受賞者の言葉(目黒公郎)】

既存不適格建物の耐震補強対策は、わが国の地震防災上の最重要課題であるにもかかわらず、うまく進展していません。将来の地震時に大量の死傷者を出すことが確実視されているのに、私的財産である住宅に対する対策は、あたかも「アンタッチャブル」な問題として従来扱われてきたかのようです。人口減少、少子高齢化などの課題を抱えるわが国において、良質な社会ストックとしての建物を維持していく方法は、「いい場所を選んで」「いい建物をつくって」「適切に維持管理して」「長く使う」仕組みをすることです。このような問題を背景として取り組んだ研究が、地域安全学会の第1号の論文賞として評価していただいたことを深く感謝します。

巷では、何もしないで弱い家に住んでいて、それが地震で壊れると建物の再建費が援助されるような制度が検討されていますが、これは断固阻止しなくてはなりません。理由は、この制度では市民が防災に努力するインセンティブをなくし、結果的に地域の地震被害を増大させてしまうこと、また今後、数10年のわが国の地震活動度を考えれば、支援の為に予算の裏づけもないためです。また対策を進める上で、「既存不適格構造物の所有者/住民＝年寄りで、貧乏な人」という論理のすりかえはやめましょう。年齢・経済的な課題を抱えている住民の問題は別途考えるべきものです。これらを混同して、問題解決を阻害するような姿勢は正しくありません。「努力している人が報われる。皆で災害に強い社会をつくっていく。努力していたのに被災した人には、社会が手厚くケアする。」このような社会制度づくりをめざして今後も研究を続けていきたいと思いません。地域安全学会の会員諸兄・諸姉のご指導とご鞭撻をお願いいたします。

2001 年度地域安全学会論文奨励賞

宇治田 和（東京大学）

「木造密集市街地における地震時被害発生と住民の緊急行動のマイクロシミュレータ(プロトタイプ)の開発」

【指導教官から一言(東京大学 家田仁)】

宇治田君は私とともに密集市街地問題の研究に取り組んでいますが、私の研究室に隣接する交通基盤防災工学の研究室の助手として梅澤忠雄客員教授らとともに都市開発問題に取り組んでいるほか、本学生産技術研究所目黒公郎助教授の研究室でも勉強した経緯があり、地震防災や交通・都市計画に関する問題点や解決への様々な考え方を知っています。また、今回の研究は現場見学や地元の人々へのヒアリングも行いながらの実践であり、彼自身が足で稼いだ分も大きいと思います。我が国では今後、防災安全分野の研究が強化されていく傾向にあると思いますが、それを受けて都市や社会がどうあるべきかを考え実践できる人材が求められます。今後、彼が新しい防災研究者として躍進することを願っています。

【受賞者の言葉（宇治田和）】

この度は大変すばらしい賞をいただきありがとうございます。報告した論文は密集市街地の地震防災問題を扱ったものです。大学の周りにそうした災害時の危険度が高く放置された市街地が限りなく広がっており研究対象の手近さとして恵まれたこと、実務関係の方々や研究ゼミなどで市街地を専門的観点から見学できる機会に恵まれたこと、指導教官や研究室のメンバーと防災的観点やそれ以外での問題点についても議論する機会に恵まれたことなど、多くの方々のご支援があってこの研究の取り組みが深くなったのだと考えています。研究はまだ途上と考えていますが、今回の受賞を励みとしてさらに知見を積み重ね、学術的な成果のみならず、市街地での地震被害軽減に生かすことができるよう努力したいと思います。

佐野和彦（ティージー情報ネットワーク）

「都市域における震災用防災マップに関する研究 - 東京特別区を対象として - 」

【指導教官から一言(東京都立大学 中林一樹)】

この論文は、佐野和彦さんの東京都立大学都市科学研究科に出した修士論文を基に、書き換えたものです。彼は、学部が理学部地理学科で、地図を活用して何かしら防災に役立てる研究をやりたいと、都市科学に進学してきました。防災面での地図活用は、様々なものがあり、先端的にはGIS技術としての活用研究から、ハザードマップや各種防災地図のような研究、さらには防災点検マップづくりというような防災学習における地図活用研究もあるということでしたが、彼は、防災地図としての大都市における「広域避難」と「帰宅困難」に着目して、広域的な大都市の活動に対応した防災地図のあり方を検討してみようということから始めた研究でした。図らずも、論文奨励賞をいただくことになり、指導教員として驚くと同時に、うれしく思いました。現

在 GIS を業務にしているのですが、学会発表を継続してくれることを期待しています。

【受賞者の言葉（佐野和彦）】

この度は、名誉ある賞を賜りまして、厚くお礼申し上げます。これもひとえに、東京特別区的全防災主管課の皆様、池袋消防署・本田消防署と各消防署の管轄にお住まいの皆様方による調査のご支援と、東京都立大学都市科学研究所の中林一樹教授、ならびに玉川英則教授、中玉研究室の皆様のご指導の賜物と存じ、深く感謝いたしております。

現在、私は㈱ティージー情報ネットワークにおきまして、防災分野でもご利用いただける Web 版の GIS 『inetMAP』の開発に携わっております。これを機に社業や研究に精励するとともに、地域防災のお役に立つべく努力していく所存でございます。今後とも、一層皆様のご指導ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



授与式の写真：左から熊谷学会長，宇治田氏，目黒氏，佐野氏，翠川副会長（学術委員長）

(8) 前 FEMA 長官 James L. Witt 氏の講演報告

2002 年 6 月 1 日 (土) に開催された総会に先立ち、米国連邦緊急事態管理庁 (FEMA) 前長官 James L. Witt 氏による講演会が行われ、約 100 名ほどが参加した。約 1 時間半の時間であったが、FEMA がどのような苦難を乗り越え、現在の体制に至ったか、どのようなポリシーで危機管理に臨んできたかなどについて貴重な話をうかがうことができた。



写真：講演中の Witt 氏

3 . 査読論文の審査状況報告

今年度の査読論文の募集は、6月3日に締め切られましたが、計56編の論文が投稿されました。この数は、昨年度の応募数43編を大幅に上回るもので、学術委員会としてはうれしい悲鳴を上げているところです。現在、これらの投稿論文は、各々2名の査読者による査読を受けており、7月末の学術委員会の審議によって、第1次の評価結果が出されます。修正依頼を行った後の論文に対して、9月末の学術委員会を経て、最終的な登載の可否が決定されます。採択された査読論文は全て、11月の研究発表会での発表が義務づけられています。また、これらの論文に対して、今年も論文賞、論文奨励賞の選考を発表会の場で行いますので、発表にも十分な準備をお願いいたします。

(学術委員会)

4 . 次回日米都市防災会議について

NSFが日米都市防災会議の来春開催にgoサインを出しました。今回のWorkshopを主催するEERIは来年3月末にハワイマウイ島で2泊3日程度の会議を開催する予定です。8月中旬以降にEERIから会議開催案内が出される予定です。これからもEERIと地域安全学会のHPにご注意ください。アメリカで7月に行われた日米の準備会では、今回の会議のワーキンググループ候補となるトピックス案です。

1. Real time Damage Assessment: CISM
2. Tsunami
3. Volcanic disasters
4. Northridge/Kobe Long term recovery
5. WTC
6. Business
7. Built environment
8. Insurance/Reinsurance
9. Capacity building: Local government, general public
10. GIS/Mapping
11. High Tech countermeasures/ Robotics
12. Land use planning
13. Interoperability/Stove pipe
14. Other urban disasters

(日米都市防災会議担当理事 林 春男)

5 . INFORMATION

新規入会者へのお詫びとお知らせ

この度は本学会へご入会頂きありがとうございました。

当学会は発足以来順調に会員数を伸ばし、本年度ようやく日本学術会議研究団体への申請資格を得ることができました。これにつきましては新規会員獲得の働きかけを理事にお願いし、積極的にサポート頂けたことが大きく寄与しているものと感謝しております。おかげさまで多くの方々から新規入会申込みを頂きました。

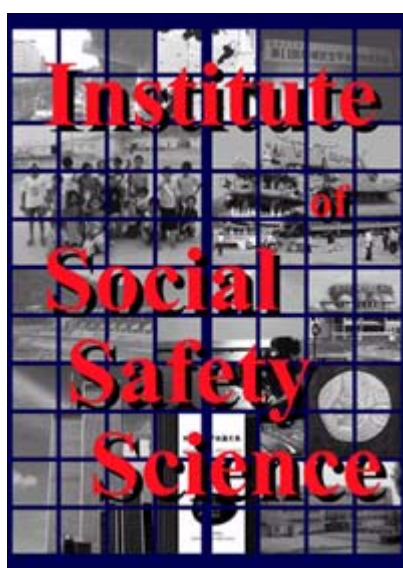
しかしながら、事務局の体制が一度に大量の手続きをこなせる状況になかった為、新規会員の方から「入会申込書を送った後に受付したという連絡がない」とのお叱りを受けております。ご迷惑をおかけ致しました事、この場をかりてお詫び申し上げます。

通常は入会申込があった場合は必ず会員名簿とニューズレター最新号(余部があれば)をお送りし入会手続きが完了した旨ご連絡しております。今回多数の入会申込みが殺到した為、一部入会手続き完了のご連絡が遅れておりましたが、過日新規入会者全員に入会手続き完了のご案内文をお送り致しました。万一入会申込書を出したにも関わらず事務局から手続き完了の連絡がないという方がいらっしゃいましたら事務局までご一報頂きますようお願い致します。

また、周辺の方で申込書送付後も事務局から連絡がないという方にお心当たりがございましたら事務局へのご連絡をお伝え願えれば幸いです。

(地域安全学会事務局)

学会パンフレットの完成



この春、地域安全学会は日本学術会議研究団体への申請資格を得る運びとなりました。これを機に、学会パンフレットのデザインが新しくなりました。イメージカラーは、知性を表す「青」を表現した査読論文のデザインに合わせ、ネイビーブルーとなっています。またパンフレットの中で、学会の象徴である卵のロゴマークの意味についても触れています。学会の更なる発展を願うとともに、学会員の皆さまにこのパンフレットが親しんでもらえたら幸いです。

(広報委員会 村尾修)

地域安全学会ニュースレター
第41号 2002年8月

地域安全学会事務局

〒111-0051 東京都台東区蔵前3-1-10 蔵前セン